

欧米言語ゼミナール (その4)

2単位 3年(後期), 4年(後期)

宮崎隆義・教授 / 人間文化学科

【授業目的】 小説は、個人の内面生活から、個人をとりまく社会やさらには国家に至るまで、あらゆるものを取り込んで描き出している。その世界は、言葉による虚構の空間一嘘の世界でありながらも、その延長上で、社会、文化、言語、思想、歴史、政治、経済等、あらゆるレベルにおいて現実の世界と通じ合っており、現実の世界の理解を助けてくれるものでもあるといえる。当ゼミナールでは、小説という言葉による芸術を通して、主に19世紀の、さらには時代を超越しての、イギリスの世界を理解しつつ、普遍的な自分自身の存在の問題として、文学を味わい理解してゆきたい。4年次では、卒業論文の作成を念頭に置きながら、設定したテーマをいかに論考してまとめてゆくかを具体的に行う。

【授業概要】 19世紀イギリス小説の世界

【キーワード】 イギリス小説, 作品理解

【先行科目】 『英米文化研究Ⅰ(その1)』(1.0), 『英米文化研究Ⅰ(その2)』(1.0)

【関連科目】 『英米の社会と文化Ⅱ(その1)』(0.5), 『英米の社会と文化Ⅱ(その2)』(0.5)

【履修上の注意】 受講生のみなさんの関心を重視しながら、方向を定めてゆくので積極的な授業参加を望む。通年受講が望ましい。

【到達目標】 文学作品とその社会的文化的意味についての理解を深めた上で、設定したテーマを論文としてまとめる。

【授業計画】

1. 具体的には19世紀の代表的な小説家であるハーディ、ディケンズ、エリオットなどの作品を中心としたいが、他にも児童文学、妖精文学、娯楽文学など、広く様々なジャンルの作品を材料として、読むことの楽しさと小説という言葉芸術の幅広さ、深さを理解することを目標としたい。また、映像化された文学作品という観点から、映画芸術にも目を向けてみたい。
2. 第1回 これまでの総括
3. 第2回～第7回 研究のまとめ方
4. 第8回～第15回 研究のまとめ方と文献資料のまとめ方
5. 第16回 総括

【成績評価】 ゼミナールであるので、出席状況、授業時の取り組み姿勢、テーマ探求の評価、報告等の結果に基づいて成績評価を行いたい。

【再試験】 行う

【教科書】 適宜プリントや言語材料を用意する。参考書等についても適宜紹介する。

【参考書】 参考資料は授業時に適宜配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218454>

【連絡先】

⇒ 宮崎 (総合科学部1号館3階北棟3309, 656-7131, miyazaki@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 火・木曜日 12時～13時)

【備考】 この授業科目は8単位まで履修することができます。